

明峰中学校と小瀬高校は連携型中高一貫教育に取り組んでいます。これまでの連携活動について紹介します。

●ふれあいキャンパス(11月12日)

11月12日(木)、連携型中高一貫教育生徒交流事業「ふれあいキャンパス」を小瀬高校で開催しました。明峰中と小瀬高の教員が協力して12の講座を設け、生徒たちは普段の授業とは違う雰囲気の中で一緒に楽しく学ぶことができました。小瀬高生が明峰中の生徒をサポートするなど、中高生同士と一緒に授業を受けることで、交流を深めることができました。



「百人一首」(国語科)より



「コースター作り」(家庭科)より

また、新しい発見をする学びの機会にもなり、主体的で対話的な活動が展開できました。

～笹崎さん(明峰中)の言葉～

私たち中学生にとって、ふれあいキャンパスは高校生と交流できる貴重な体験の一つです。私は「What is “Fair Trade” ?」の講座に参加しました。小瀬高の先輩たちが優しく接してくださり、発展途上国の労働現状と Fair Trade の仕組みについて楽しく学ぶことができました。この学びを生かして、色々なことに挑戦していきたいと思います。

～内藤さん(小瀬高、御前山中出身)の言葉～

中学生の頃から数えると、私はふれあいキャンパスに5回参加しました。その体験のおかげで、初めて参加する中学1年生やバレーボール講座が初めての生徒たちに積極的に声をかけ、教えることができました。中学校で体験するふれあいキャンパスと高校で体験するものは一味違います。小瀬高に進学して、その経験を積み重ねて欲しいと思います。

●連携中の明峰中で「スポット的授業」(11月10日、11月17日)

連携型中高一貫教育校である小瀬高校と明峰中学校では、連携事業として小瀬高の教員が明峰中の生徒に出前の授業を行う「スポット的授業」を実施しています。11月10日(火)、宮本教諭による古典の授業が行われました。授業では、小瀬高生3人による平安時代の恋愛の型や婚姻制度についてのロールプレイを鑑賞したあとで、百人一首の和歌を学習しました。明峰中生からは「言葉や生活は今と異なるが、感じ方や思いは似ている」「時代背景を知って古典を学ぶとより面白い」等の感想が寄せられました。11月17日(火)、上田教諭による歴史の授業が行われ、戦国時代における佐竹氏と豊臣氏との関係や水戸藩を支えた旧緒川村の紙すきのこと等について学びました。生徒からは「緒川に紙すき場があり、水戸藩の財政を支えていたことを知った」「地元と水戸黄門の繋がりを知り、歴史が好きになった」等の感想が寄せられました。



ロールプレイをする小瀬高生(国語)



積極的に質問する生徒(社会)